

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群の実態調査の体制の検討

研究分担者：太田康之：山形大学大学院医学系研究科・内科学第三講座神経学分野

研究協力者：佐藤裕康、猪狩龍佑、近藤敏行、佐藤大祐：山形大学大学院医学系研究科・内科学第三講座神経学分野

研究要旨

「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」（ME/CFS）患者の実態調査のための体制を検討するため、2021年4月～2023年12月に当科に入院した神経疾患患者で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を認めた患者の実態につき検討した。高齢患者は神経症状が悪化する傾向があり、今後ME/CFSについて検討を継続する必要がある。

A. 研究目的

「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」（ME/CFS）患者の実態調査のための体制を検討するため、当科に入院した神経疾患患者で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を認めた患者の実態につき検討する。

B. 研究方法

2021年4月～2023年12月に、山形大学医学部附属病院脳神経内科に入院した神経疾患患者で、COVID-19を認めた患者9名の入院での転機を評価した。

（倫理面への配慮）

個人情報の保護に配慮した

C. 研究結果

COVID-19を認めた神経疾患患者9名の平均年齢は64.6歳であり、神経疾患は筋萎縮性側索硬化症（ALS）3名、進行性核上性麻痺（PSP）1名、多系統萎縮症（MSA）1名、脳血管性パーキンソンニズム（VP）1名、多発性硬化症（MS）1名、脳梗塞1名、てんかん1名であった。入院前と比較し、神経症状の悪化を認めた患者は5名おり、ALS 2名、MSA 1名、PSP 1名、VP 1名だった。悪化を認めた患者の平均年齢は71.6歳であり、高齢である傾向を認めた。対象患者でME/CFS診断基準は満たす患者は認めなかった。

D. 考察

高齢の神経疾患患者は、COVID-19により神経症状悪化を認める傾向がある。

E. 結論

高齢の神経疾患患者は、COVID-19により神経症状悪化を認める傾向があり、今後ME/CFSについて検討を継続する必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

[雑誌]

Sato D, Sato H, Kondo T, Igari R, Iseki C, Kawahara H, Amano S, Ono Y, Kimura A, Shimohata T, Ohta Y. A case of anti-IgGON5 disease showing a n improvement in dysautonomia, including vocal cord palsy, via combined immunotherapy. *Intern Med* :Online ahead of print, 2024

[書籍] なし

2. 学会発表

- 1) 近藤敏行, 伊関千書, 星真行, 新藤柁, 長橋育恵, 小下弘嗣, 深見忠典, 青柳幸彦, 山田茂樹, 太田康之. 地域高齢住民における歩行,脳領域容積体積,および大脳白質病変の性差. 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 6月2日, 2023年
- 2) 太田康之. 山形大学医学部附属病院難病診療連携センターの立場から. 第11回日本難病医療ネットワーク学会学術集会, 愛知, 11月11日, 2023年.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし